

# 城山高校生と地域の老舗による新たな挑戦!



▲赤岡物語、考え中。大いに悩むメンバー

矢野卓哉先生

**2年前の先輩が企画**  
城山高校ビジネス研究部の学生たちから始まった「地元を元気に盛り上げたい」というプロジェクト。「香南市には、祭りやイベントがたくさんあるのに、お土産品は少ないよね。」「香南市って、美味しいものがたくさんある。それぞれの町の特産品を使ったお菓子を作ろう」と、始めました。指導してきたのは商業科矢野卓哉先生。「最初はニラのお菓子を作ろうとしましたが味や風味など大変難しくなかなかうまくは作れませんでした。」

**まず、地元赤岡町から**  
「そこで、赤岡町のおじちゃんを使ったおせんべいから始めることにしたので。商品づくりとなると自分たちだけでは無理だと感じ、企画を香南市の事業所で協力してもらえないかと相談にも行きましたが、なかなか話が進みません。今年になって、観光協会に話をもちかけたところ、『協力しましょう』と言ってもらえました。そして、赤岡町に本店がある武市神栄堂さんが『ぼくは、城山高校OBやき、協力しちやりたい』と、家族を説得して、『塩じゃこせんべい』の開発に取り組んでくれることになったのです。」

**土佐赤岡の物語**  
商品づくりには物語が必要。地域の協力者と城山高校生との合同企画会議では、武市さんが焼いてくれた試作品を味見し、意見や課題を出し合い、赤岡の歴史、産業、観光どんな人に食べてもらいたいのかな?などの赤岡物語を考えました。今年のプロジェクトメンバー(3年生)は、意見が出るまでに時間はかかったものの、思いを表現してくれて、おじちゃん物語で行くことに決定。初めての「商品開発」という作業が、ひとつずつ手探りで進められていきました。試作品への意見に基づき、武市さんが試作を何度も何度も繰り返し返してくれて、やっと今年の絵金祭りで「試食販売」を経験することができました。

**商品完成に向けて**  
製造の武市さんは「甘いせんべいやつたら、しよいがやけど、塩せんべいは、難しいがよー」と、高温の加工場の中、汗だくになって塩じゃこせんべいに取り組んでくれています。  
「これができたら香南市の5つの町の特産品を使って5つの味と物語のおせんべいを作りたいと思っています!」城山高校生の挑戦は、まだまだ続きます!



▲武市神栄堂で話を聞くメンバー



▲初めての試食販売



▲ポスターのための文字描き



**城山高校生企画「塩じゃこせんべい」**  
香南市にある唯一の高校「県立城山高等学校」。2年前から「香南市のお土産商品開発」に取り組んでいます。市観光協会が協力してくれており、地域で応援してくれる人も増えてきています。  
■担当/広報編集委員 田中たい子

## 高校生の感想より

先輩方のがんばりや努力もあっての今なので、仕上げのためにも「塩じゃこせんべい」に力を入れて香南市を活性化させていきたい。そのためにも、もっと香南市を知っていきたく思った。

マチイロ  
スマホで  
広報を見よう!

《広報へのメール》  
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp  
《香南市のホームページ》  
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

■連絡・問い合わせ先  
防災対策課  
☎57-8501

♪チャイム  
「これはテストです」  
「こちらは、ほうさい  
香南市です」  
♪チャイム

市内全地区を対象に、地震や津波などの発生時に備え、全国瞬時警報システム(Jアラート)を用いた情報伝達訓練を兼ねて、市内の防災行政無線の試験放送を行います。

8月29日(水)  
午前11時

「アラートの試験  
放送を行います」